

平成 19 年 5 月 15 日

各 位

上場会社名 株式会社 ツムラ
コード番号 4540
本社所在地 東京都港区赤坂 2-17-11
問 合 せ 先 責任者役職名 コーポレート・コミュニケーション室長
氏 名 加 藤 照 和
TEL(03)6361-7100

2007～2009 年度 中期経営計画（連結）について

当社は、本日開催の取締役会において、2007 年度（2008 年 3 月期）を初年度とする中期（3 ヶ年）経営計画を策定しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 中期経営計画策定に当たっての考え方

当社は 2005 年 7 月に、2005 年度を初年度とする中期（3 ヶ年）経営計画を策定・発表いたしました。この間当社は、「当社の強みをより強くし、経営環境の変化に対応していく」ことを目的に、事業の再構築に積極的に取り組んでまいりました。具体的には、

- ・漢方医学の確立のための活動の継続
- ・育薬の推進
- ・米国における開発の推進
- ・日本生薬の吸収合併
- ・家庭用品事業の分社化
- ・原料生薬の調達・加工・研究を統括する生薬本部の設立
- ・本社ビルの売却

等の施策を実行してきました。その結果、当社が目指すべき「漢方・生薬に特化」した事業展開ができる環境になりましたが、これらの施策により、2005 年 7 月当時とは当社及び当社グループの経営環境が著しく変化いたしました。そのため、2007 年度を「漢方・生薬事業に特化した事業展開のスタートの年」と位置づけ、新たな中期計画を策定いたしました。

新たな中期経営計画の骨子は以下のとおりです。

(1) 売上高、利益について

医療用漢方製剤は、数量ベースで 7%の伸張を前提とし、2009 年度連結売上高 1,045 億円、営業利益 200 億円を目指します。

(2) 重要な経営指標

資本効率の改善、更なる収益率向上の観点から、引き続き ROA（総資産営業利益率）を重要な経営指標として位置づけてまいります。本社ビル売却、保有する投資有価証券の時価上昇等により総資産が増加いたしました。2009 年度 13.5%を目標といたします。

(3)設備投資について

医療用漢方製剤の需要の増大に伴い、既存設備の更新を行なうほか、茨城工場敷地内で新工場の建設に着手します。これに伴う設備投資が2009年度から発生します。

(4)有利子負債について

引き続き有利子負債の圧縮に努め、2009年度230億円を目標とします。

(5)配当について

投資等の状況を勘案しながら、増配を検討してまいります。

2. 2007年度～2009年度 中期経営計画における数値目標（単位：百万円）

	2006年度 実績	2007年度		2008年度		2009年度	
		計画	前同比	計画	前同比	計画	前同比
売上高	91,227	95,000	4.1%	99,000	4.2%	104,500	5.6%
（医薬品事業）	76,182	79,600	4.5%	82,100	3.1%	87,000	6.0%
（家庭用品事業）	15,044	15,400	2.4%	16,900	9.7%	17,500	3.6%
営業利益	15,505	16,000	3.2%	17,000	6.3%	20,000	17.6%
（医薬品事業）	14,550	15,200	4.5%	15,600	2.6%	18,400	17.9%
（家庭用品事業）	954	800	△16.1%	1,400	75.0%	1,600	14.3%
経常利益	14,643	15,500	5.9%	16,500	6.5%	19,600	18.8%
当期純利益	13,152	8,800	△33.1%	9,500	8.0%	11,500	21.1%
研究開発費	4,829	4,600	△4.7%	4,600	—	4,600	—
設備投資	3,906	4,700	20.3%	6,700	42.6%	8,200	22.4%
有利子負債	35,705	28,500	△20.2%	25,000	△12.3%	23,000	△8.0%
自己資本	68,455	75,600	10.4%	83,300	10.2%	92,800	11.4%
自己資本比率	47.7%	54.6%	—	56.9%	—	59.8%	—

	2006年度実績	2007年度計画	2008年度計画	2009年度計画
ROA （総資産営業利益率）	11.1%	11.3%	11.9%	13.5%

3. 中期経営計画の活動目標

(1)漢方医学の確立

引き続き、全国80大学医学部・医科大学における漢方医学教育充実、及び付属病院への漢方外来設置を働きかけてまいります。

(2)育薬の推進

近年の疾病構造を見据え、医療ニーズの高い領域において新薬治療では難渋している疾患で、医療用漢方製剤が特異的に効果を発揮する疾患に的を絞り、臨床・基礎データの集積を進めてまいります。

(3) 漢方の国際化

当社が今後医薬品業界の中で飛躍するための重要な要件として、TU-100「大建中湯」の開発を進めてまいります。

(4) 生産体制の整備

新規投資及び設備の更新、効率的な要員配置の検討、さらに、育薬処方・国際化処方の原料生薬の確保、生産体制の検討、物流体制の整備等に取り組んでまいります。

(5) 生薬トレーサビリティ体制の確立

安全で安心できる原料生薬を安定確保することを目的に、原料生薬の「品質保証」及び「量的保証」に取り組んでまいります。

(6) 開かれた会社の創造

企業価値の向上を目指したマネジメント体制を構築し、当社を取り巻く多様なステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、企業姿勢を明確に示してまいります。

4. 2005年7月発表の中期経営計画の進捗状況（連結・単位：百万円）

	2005年度			2006年度		
	計画※ ¹	実績	計画比	計画※ ²	実績	計画比
売上高	89,000	90,419	1.6%	91,500	91,227	△0.3%
医薬品事業	74,800	75,439	0.9%	76,450	76,182	△0.4%
家庭用品事業	14,200	14,979	5.5%	15,050	15,044	△0.0%
営業利益	14,300	16,467	15.2%	15,700	15,505	△1.2%
医薬品事業	13,800	15,775	14.3%	14,840	14,550	△2.0%
家庭用品事業	500	692	38.4%	860	954	10.9%
経常利益	13,000	15,507	19.3%	15,000	14,643	△2.4%
当期純利益	10,400	12,380	19.0%	13,400	13,152	△1.9%
ROA	11.6%	12.8%	—	11.6%	11.1%	—

※1：2005年度の計画は、2005年7月発表時の数値です。

※2：2006年度の計画は、2005年7月発表の中期経営計画を2006年5月に修正した際の数値です。
なお売上高、セグメント別の営業利益につきましては、2006年11月の中間決算発表時に再度修正しております。

以上